

試料・情報利用研究計画書(概要)				
研究番号	2025-1008	利用形態	共同研究	
研究題目	不正咬合に起因する歯の喪失に関する研究		研究期間	2025年7月 ～ 2027年3月
主たる研究機関	東北大学東北メディカル・メガバンク機構	責任者氏名・職	清水 律子	教授
分担研究機関	東北大学歯学研究科	責任者氏名・職	沼崎 研人	医員
研究目的と意義	本研究の目的は、東北メディカル・メガバンク機構における大規模コホート調査で得られた歯科検診データを用いて、咬合状態と歯の残存状況との関連を横断的および縦断的に検討することである。具体的には、不正咬合が歯の喪失に与える影響を明らかにすることを目指す。			
研究計画概要	不正咬合を有する者は、口腔内の清掃性の低下により歯周病が進行しやすく、また特定の歯に過大な咬合力が加わる外傷性咬合などにより、正常咬合を有する者と比較して歯の喪失リスクが高いことが知られている。特に反対咬合および開咬を有する場合、80歳時点で20本以上の歯を有する(いわゆる8020達成)割合が0%であったとの報告もあり、不正咬合と歯の喪失との関連が指摘されている。しかし、これまでの研究は調査対象が100名未満と小規模であり、科学的根拠としては限定的である。 そこで本研究では、東北メディカル・メガバンク機構(ToMMo)の健康調査に参加した40歳以上の対象者の歯科情報を用い、不正咬合の有無や種類を分類・評価する。さらに、不正咬合と歯の喪失との関連解析にあたっては、口腔衛生状態、う蝕状況、歯周病の重症度といった口腔内因子に加え、生活習慣病の有無、飲酒・喫煙歴、BMIなどの全身的要因を考慮し、多変量解析を行う。			
利用試料・情報	対象:地域住民コホートおよび三世代コホート調査参加者のうち、口腔内検査を受けた40歳以上の方(1次調査:約22,000人、2次調査:約36,000人) 試料:なし 情報:基本情報(年齢、性別)、歯科情報(前歯部被蓋、歯の状態、歯周組織検査、咬合、口腔衛生状況)、生理学情報(身長、体重)、調査票情報(生活習慣病の有無、教育歴、歯科受診歴、飲酒・喫煙歴)			
期待される成果	本研究により、不正咬合が歯の喪失リスク因子であることが明確となれば、矯正歯科治療が歯の喪失予防に有効であることを示すエビデンスとなる。この成果は8020達成者の増加を後押しし、ひいては国民の健康寿命の延伸に寄与することが期待される。			
倫理審査等の経過	2024年11月 東北大学大学院歯学研究科研究倫理委員会			
倫理面、セキュリティ面の配慮	研究対象者である地域住民コホート及び三世代コホート調査の参加者からのすべての情報は、ToMMoの匿名化管理室において加工され、対応表は生体認証付金庫に収納された生体認証とパスワードによりアクセス制限をされたコンピューターに保管され、一切のネットワークから切り離された状態で管理されている。健康調査情報については、ToMMoスパコンのセキュリティ区画に匿名化した状態で保存され、データアクセスと解析は、ToMMo内または遠隔セキュリティエリアの限定されたセキュリティ区画内で倫理審査により承認された研究員によってのみ、複数の生体認証の後に行われる。同セキュリティ区画以外へは統計情報以外は持ち出さない。なお、当研究に携わる研究者は、定期的に倫理および情報セキュリティに関する教育を受講する。			
その他特記事項	この研究は運営費交付金により実施します。			
(事務局使用欄)	*公開日 2025年6月27日			